

水野勝成福山入封400年記念
 国宝 久能山東照宮—徳川家康と歴代将軍ゆかりの名宝 出品目録

2019年9月21日（土）～11月17日（日）
 前期：2019年 9月21日（土）～10月20日（日）
 後期：2019年10月22日（火）～11月17日（日）

ふくやま美術館 9:30-17:00
 (11/8(金)、9(土)、15(金)、16(土)は19:00まで開館)
 福山城博物館 9:00-17:00
 ふくやま書道美術館 10:00-19:00

【この展覧会について】
 久能山東照宮は、静岡県静岡市にある神社で、徳川家康（1542-1616）を神さまとしてお祀りしています。江戸幕府を開いた徳川家康は、実は、福山藩の初代藩主、水野勝成（1564-1651）の従兄弟にあたる人物です。水野勝成が福山藩主となって、今年で400年を迎えることを記念し、久能山東照宮に納められた宝物のなかから、徳川家の歴代将軍ゆかりの140点の作品を紹介します。ふくやま美術館では、特に、神としての家康、武将としての家康、ひとりの人間としての家康のすがたを知ることができるような品々を展示しています。

第一章 久能山東照宮の開創—神となった家康							
番号	指定	名称	ひとこと解説	作者	時代	展示期間	
						前期	後期
1		東照大権現像 天海僧正賛写	神様としての徳川家康のすがた		江戸時代 17-18世紀		
2	重文	征夷大將軍旨宣案	徳川家康を征夷大將軍に任命することを記した文書の控え		江戸時代 慶長8年（1603）		
3	重文	太政大臣口宣案	徳川家康を太政大臣に任命することを記した文書の控え		江戸時代 元和2年（1616）		
4		後水尾天皇旨宣	徳川家康が亡くなったとき、喪に服するよう天皇が命じたことを記した文書		江戸時代 元和3年（1617）		
5		太政官符	久能山東照社の完成にあたり、朝廷から使いが送られたことを記した文書		江戸時代 元和3年（1617）		
6		宸翰「東照大権現」神号	天皇が「東照大権現」と記した書	後水尾天皇	江戸時代 17世紀		
7	国宝附	棟札	久能山東照宮を修理したことを記録した木札		江戸時代 17世紀		
8	国宝附	釣燈籠	火をともし、久能山東照宮の軒先につるした明かり		江戸時代 寛永18年（1641）		
9	国宝	太刀 銘真恒	久能山東照社ができたときに最初に納められた刀剣	古備前真恒	平安時代 12世紀		

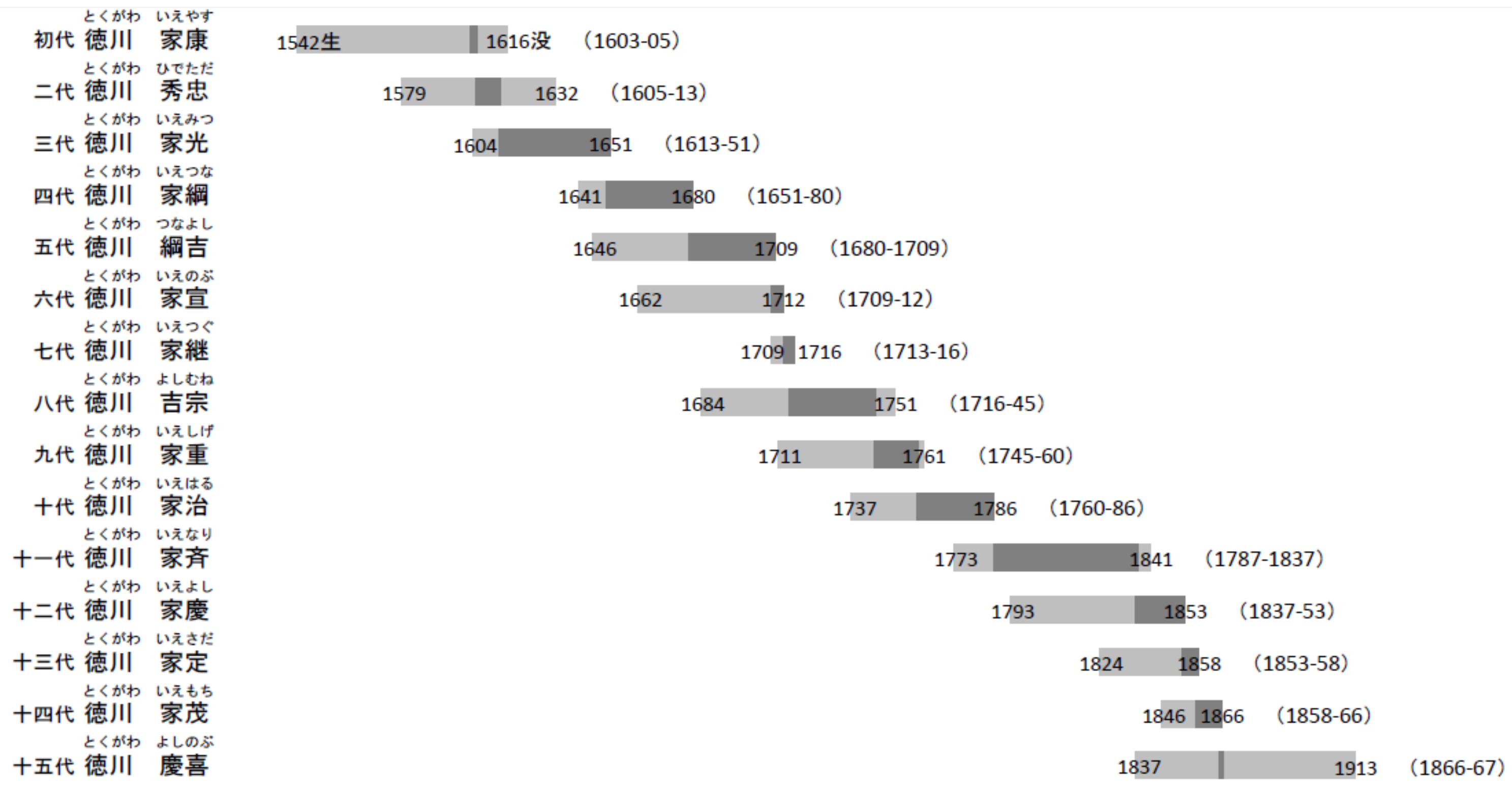
第二章 徳川家康の遺愛品							
番号	指定	名称	ひとこと解説	作者	時代	展示期間	
						前期	後期
10		久能山御道具之覚	久能山東照宮に納められた宝物のリスト		江戸時代 寛文4年（1664）成立、文政13年（1830）写		頁替あり
① 所用の武具							
11	重文	金陀美具足	徳川家康が19歳のときに着たよろい		桃山時代 16世紀		
12	重文	伊予札黒糸威胴丸具足（齒朶具足）	徳川家康が関ヶ原の戦いのときに着たよろい	岩井与左衛門	桃山時代 16世紀		
13	重文	太刀 無銘 光世	筑後国（今の福岡県）の光世が作ったとされる、徳川家康がとて大事にしていた太刀	三池光世	鎌倉時代 13世紀		
		革柄蠟色鞘打刀拵	太刀を入れるケース		桃山-江戸時代 16-17世紀		
14	重文	脇指 無銘 相州貞宗	相模国（今の神奈川県）の貞宗が作ったとされる脇指	相州貞宗	南北朝時代 14世紀		
		黒絞柄合口拵	脇指を入れるケース		桃山-江戸時代 16-17世紀		
15	重文	薙刀 無銘 直江志津	美濃国（今の岐阜県）の志津が作ったとされる薙刀	直江志津	南北朝-室町時代 14-15世紀		
		葵紋蒔絵薙刀拵	薙刀を入れるケース	古満又三郎安治	江戸時代 17世紀		
16	重文	蒔絵刀箱	刀剣をしまう箱（かつてはNo. 13やNo. 14が入っていた）		江戸時代 17世紀		
17	重文	火縄銃	火をつけて発射する銃	野田清堯	江戸時代 慶長17年（1612）		
18		金扇馬標	戦のときに陣地の目印として使う大きな扇		江戸時代 17世紀		

なんぼんしゆみ ② 南蛮趣味						
19	重文	ようどけい ねん せいこくめい 洋時計 (1581年マドリッド製刻銘)	こくおう おく とけい スペイン国王から贈られた時計		フランドル 1573年	
20	重文	きんぎんぞうがん 金銀象嵌けひきばし	ちず よ つか 地図を読むときに使うコンパス		16-17世紀	
21	重文	め き 目器	とくがわいえやす つか 徳川家康が使ったメガネ		桃山-江戸時代 16-17世紀	
22	重文	えんびつ 鉛筆	にほん いちばんふる えんびつ 日本で一番古い鉛筆		16-17世紀	
23	重文	びいどろ づぼ びいどろ壺	くすり い づぼ 薬を入れたガラスの壺		オランダか 17世紀	
にちじょう せいいかつ ③ 日常の生活						
24		とくがわいえやすぞう 徳川家康像	した とくがわいえやす 親しみやすい徳川家康のすがた		江戸時代 慶長9年 (1604)	
25	重文	しゆしよふおんじゆうきょう ちょうせんぼん 朱書父母恩重經 (朝鮮本)	とう かあ たいせつ と ほん お父さんとお母さんの大切さを説いた本		朝鮮半島・朝鮮時代 正統12年 (1447)	折替あり
26	重文	ちょうせんぼん わざいきよくほう 朝鮮版『和剤局方』	くすり ほん 薬のレシピをまとめた本		朝鮮半島・朝鮮時代 16世紀	頁替あり
27	重文	せいじ ばち 青磁鉢	くすり つく ばち 薬を作るためのすり鉢		中国・宋-明時代 15-16世紀	
		にゆうぼう 乳棒	くすり ぼう 薬をすりつぶすための棒		中国・宋-明時代 15-16世紀	
28	重文	くすりきざみこがたな 薬刻小刀	くすり きざ ちい かなたな 薬を刻むための小さな刀		桃山-江戸時代 16-17世紀	
		まきえ ざや 蒔絵鞘	こがたな い 小刀を入れるケース		桃山-江戸時代 16-17世紀	
29	重文	はさみ こうらいばさみ わばさみ 鋏 (高麗鋏・和鋏)	がいこく つく にほん 外国で作られたハサミと日本のハサミ		桃山-江戸時代 16-17世紀	
30	重文	きくきりまきえ ふたつきわん 菊桐蒔絵蓋付椀	くすりの つか わん 薬を飲むときに使うお椀		桃山-江戸時代 16-17世紀	
31	重文	あおいもんまきえきょうそく 葵紋蒔絵脇息	とくがわいえやす つか お 徳川家康が使ったひじ置き		桃山-江戸時代 16-17世紀	
32	重文	あおいもんまきえとうか 葵紋蒔絵刀架	かなたな かざ だい 刀を飾るための台		桃山-江戸時代 16-17世紀	
34	重文	まきえくし 蒔絵櫛	かみ け くし 髪の毛をとかすための櫛		桃山-江戸時代 16-17世紀	入替あり
34	重文	ぎんかぶせあおいもんちらしてぬぐいかけ 銀被葵紋散手拭掛	てぬぐい だい 手拭をかけるための台		桃山-江戸時代 16-17世紀	
35	重文	ぎん じ しっぽうつなぎもん からくさもん けほりみみだらい 銀地七宝繫文・唐草文毛彫耳盪	て あら みず い 手を洗うための水を入れるうつわ		桃山-江戸時代 16-17世紀	
36	重文	ばしよまきえすずりばこ 芭蕉蒔絵硯箱	すみ すずり ふでばこ 墨や硯をしまう筆箱		江戸時代 17世紀	
37	重文	しっぽうしよくだい 七宝燭台	ろうそく た しっぽう つく だい ろうそくを立てるための七宝で作った台		中国・明時代 16世紀	
38	重文	うちわ 団扇	ばしよ は は つく うちわ 芭蕉の葉を貼って作った団扇		桃山-江戸時代 16-17世紀	
39	重文	くら くらぼね あがみ 鞍 (鞍橋・鎧)	うま の どうぐ 馬に乗りやすくするための道具		桃山-江戸時代 16-17世紀	
40	重文	あおいもんまきえ しゆるつえ くわきつえ 葵紋蒔絵棕櫚杖・桑木杖	しゅろちやく くわ き つく つえ シュロチクや桑の木で作った杖		桃山-江戸時代 16-17世紀	棕櫚杖 桑木杖
41	重文	いがさ 藺笠	ひ かさ 日よけのためにかぶる笠		桃山-江戸時代 16-17世紀	
ちゃ こう たしな ④ 茶と香の嗜み						
42	重文	こうぼく きやら 香木 伽羅	よ かお りのする き 良い香りのする木			
43	重文	さぎまきえ こうぐばこ 鶯蒔絵香具箱	こう どうぐ はこ お香の道具をしまう箱		桃山-江戸時代 16-17世紀	
		さぎまきえ こばこ 鶯蒔絵小箱	こう どうぐ ひとつひとつしまうための はこ お香の道具をひとつひとつしまうための箱		桃山-江戸時代 16-17世紀	
44	重文	ついしゅこうごう 堆朱香合	こうぼく い ようき 香木を入れる容器		中国・明時代 14-15世紀	
45	重文	せいじこうろ 青磁香炉	こう お香をたくための、やきもののうつわ		中国・明時代 15世紀	
46	重文	こんどう ししちゆうこうろ 金銅獅子鈕香炉	こう しし きん お香をたくための、獅子のつまみがついた金 属のうつわ		中国・南宋-元時代 13-14世紀	
47	重文	ちやつぽ めい きゆうえもん 茶壺 銘 九右衛門	お茶の葉を入れるための「九右衛門」という 名前をついた壺		中国・南宋-元時代 13-14世紀	
48	重文	ちやつぽ めい かなもり 茶壺 銘 金森	お茶の葉を入れるための「金森」という名前 をついた壺		中国・南宋-元時代 13-14世紀	
49	重文	てんもくぢやわん 天目茶碗	お茶を飲むときに使う、中国で作られたやき もののお椀		中国・南宋-元時代 13-14世紀	
50	重文	せいじ うすぢやわん 青磁薄茶碗	お茶を飲むときに使う、花の形のやきもの のお椀		中国・宋-元時代 13-14世紀	
51	重文	ちゅうどうはないけ 鑄銅花生	はな い かざ どう つく つぼ 花を生けて飾るための銅で作った壺		中国・南宋-元時代 13-14世紀	
52	重文	たけせいかごめあみすみとり 竹製籠目編炭斗	すみ い たけ あ 炭を入れるための竹で編んだかご		桃山-江戸時代 16-17世紀	

第三章-1 歴代將軍ゆかりの武具							
番号	指定	名称	ひとこと解説	作者	時代	展示期間	
						前期	後期
53	重文	たち めい うんじ 太刀 銘 雲次	とくがわいえみつ ほうのう びげんのくに いま おかやまけん 徳川家光が奉納した、備前国（今の岡山県） うんじ つく たち の雲次が作った太刀	びげんうんじ 備前雲次	鎌倉時代 14世紀		
54	重文	たち めい くにゆき 太刀 銘 国行	とくがわよしむね ほうのう やましらのくに いま きょうとふ 徳川吉宗が奉納した、山城国（今の京都府） くにゆき つく たち の国行が作った太刀	やましるらくにゆき 山城来国行	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 17-18世紀		
55	重文	たち めい すえもり 太刀 銘 末守	とくがわいえしげ ほうのう びげんのくに いま おかやまけん 徳川家重が奉納した、備前国（今の岡山県） すえもり つく たち の末守が作った太刀	びげんおきふねすえもり 備前長船末守	鎌倉時代 13世紀		
56	重文	たち めい もりいえ 太刀 銘 守家	とくがわいえはる ほうのう びげんのくに いま おかやまけん 徳川家治が奉納した、備前国（今の岡山県） もりいえ つく たち の守家が作った太刀	びげんはたけだもりいえ 備前畠田守家	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 18世紀		
57	重文	たち めい くにむね 太刀 銘 国宗	とくがわいえはる ほうのう ほうきのくに いま とつとりけん 徳川家治が奉納した、伯耆国（今の鳥取県） くにむね つく たち の国宗が作った太刀	ほうきくにむね 伯耆国宗	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 18世紀		
58	重文	たち めい やすのり 太刀 銘 安則	とくがわいえはる ほうのう びげんのくに いま おかやまけん 徳川家治が奉納した、備前国（今の岡山県） やすのり つく たち の安則が作った太刀	びげんいちもんじ やすのり 備前一文字安則	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 18世紀		
59	重文	たち めい たかざね 太刀 銘 高実	とくがわいえなり ほうのう びげんのくに いま おかやまけん 徳川家斉が奉納した、備前国（今の岡山県） たかざね つく たち の高実が作った太刀	びげんたかざね 備前高実	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 18世紀		
60	重文	たち めい くにゆき 太刀 銘 国行	とくがわいえなり ほうのう やましらのくに いま きょうとふ 徳川家斉が奉納した、山城国（今の京都府） くにゆき つく たち の国行が作った太刀	やましるらくにゆき 山城来国行	鎌倉時代 13世紀		
		あおいもんまきえいとまきたちごしらえ 葵紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 18世紀		
61	重文	かたな めい へいあんじょうながよし さく りやくおうにねんはちがつじつ 刀 銘 平安城長吉作 / 暦応二年八月日	とくがわよしむね てんのう やましらのくに いま 徳川吉宗が天皇からいただいた、山城国（今 きょうとふ ながよし つく たち の京都府）の長吉が作った太刀	やましるへいあんじょうながよし 山城平安城長吉	南北朝時代 暦応2年（1339）		
		きくきりもんまきえいとまきたちごしらえ 菊桐紋蒔絵糸巻太刀拵	たち い 太刀を入れるケース		江戸時代 17-18世紀		

（作品は全て久能山東照宮博物館蔵）

【徳川家歴代将軍一覧】



() 内の数字および ■ は将軍在職期間を表す

みなさまに楽しく展覧会をご覧いただくために、以下の注意事項を守っていただきますよう、お願い申し上げます。

※展示作品はすべて撮影禁止です。

※他のお客様のご迷惑となることがございますので、ペンライト（懐中電灯）の使用はご遠慮ください。

※展示ケースに触れることのないよう、ご注意ください。